

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員の見える所に掲示しており、共有し、心がけています。 カンファレンスで、職員全員で話し合い、ケアについて統一を図っています。 | 法人の理念とホーム独自の理念を基に常に話し合いが行われ、職員の指針として、また、一人ひとりのモチベーションアップに繋げている。管理者の手書きによる独自の理念を事務室や共用スペースに掲示し、温かみのある文字からも利用者を支える思いが伝わり、職員も利用者や家族等への配慮を欠かさず実践している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 新聞を作成し、回覧をお願いしています。 散歩や買い物など、出掛けた時には挨拶をかわしたりしています。 | 自治会費を納め、役場から町広報誌が届き、町の情報がつぶさに把握できている。社会福祉協議会主催の、町の文化館で開催される「ふれあい広場」に作品を出品し、また、利用者や職員が催し物を見に出かけている。地域の人々との関わりも深く、シルバーの方々にホーム敷地内の草取りをしていただいたり、演歌体操やスコップ三味線のボランティアにも来訪していただき演奏等をしていただいている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 法人で認知症関連講習会を、開催しています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、活動報告をして意見要望等を聞き、話し合い、サービス向上に努めています。 | 会議は奇数月に開催し、家族代表、地区総代、隣組組長、民生児童委員、消防団班長、駐在所所員、役場担当者等に参加していただき双方向からの話し合いを行っている。特に、冬場の雪かきについては道幅の目印や塩カルの準備、役場への申請まで、実態にあった支援をしていただいている。ホーム周辺の駐在所の夜のパトロールもあり安心である。2ヶ月に1回発行する「まんてん通信」も委員である地区総代や組長に配布し意思疎通を図っている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | ケア会議に参加しています。 認定更新時等、担当者で連携をとっています。 書類提出等は、郵便ではなく直接担当者に届けるなどして、話す機会を作っています。 | 運営推進会議を通して連携を取っているが、提出書類は管理者が必ず町担当部署に持参し良好な関係を作っている。介護認定の更新については家族が立ち合い、ホーム内にて行っており、要請があれば主任リーダー等が資料提供や利用者の現状の話をしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束についての学習を、ケア会議でしています。 身体拘束をしないケアについて掲示しています。 ご家族とその都度話し合い、相談しています。 | 玄関の施錠はしておらず、チャイムの音で戸の開閉を知らせている。また、センサーマットを使わないケアに取り組んでいるが、家族との話し合いで夜間のみベッド柵を使用しリスクを回避している利用者がある。周辺自治体で開催される各種研修に職員が参加し、ケアカンファレンス時に情報共有のための職員研修もしている。 | |

グループホームまんでん

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修会等に参加して、ケア会議等で学ぶようにしています。掲示しています。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在は活用していませんが、研修会に参加し、ケア会議等で復命しています。今後、必要性もあるので活用できるように学びたいと思います。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に十分説明し、同意を得るようにしています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | ご家族に現在の様子等を連絡報告し、訪問時等に意見要望をお聴きしたり、話を伺うようにしています。 | 自らの意見や要望を言葉や身振り、手振りで表出できる方がほとんどであるが、中にはできない方もいる。利用者の意見や要望を職員は真摯に受け止め、それらを検討し運営に反映している。週3回来訪がある家族もあり、遠方の方でも3ヶ月に一度の来訪があり、お茶を飲んでいただきながら、管理者や主任リーダーは利用者の近況などを話し要望等も聞き、ホームの運営に活かしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ミーティング等で意見を聴くようにしています。管理者は、意見を聴く機会を設けています。 | カンファレンスを月1回、月末の何れか一日の19時から行っている。管理者や主任リーダー、職員、双方からの意見・提案などを出し合い、「まずはやってみる」を合言葉に話し合い、実践に取り組んでいる。利用者への対応については決めつけず臨機応変に、その日その日の支援をして行こうと具体的な話し合をしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 体調管理には十分注意しています。研修会等にも参加できるように、声掛けをしています。職員それぞれが、意見要望等を話しやすいように、環境の整備に努めています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修会には、案内等を掲示したりして、出来る限り参加出来るようにしています。ミーティングでも報告しています。 | | |

グループホームまんでん

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 連絡会等にも参加して、学習会や交流を持つことにより、サービスの向上を目指しています。 出来るだけ機会を作っています。 | | |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前面談で、本人の様子を見たりお話をしたりしています。 ホーム内の見学もしています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族が話しやすいような環境作りに努め、お話(これまでの経緯など)を、ゆっくり聴くようにしています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人とご家族の思いを聴きながら、必要としているサービス支援を考えています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | お互いが笑ったり、喜んだり、悲しんだり、困ったことを感じ、時には人生相談をしたり、助言をしていただいたりと、協働しながら生活するようにしています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族にも、出来る限り来所していただき、ご本人とゆっくり過ごせるようにしています。イベント等を計画し、参加していただくようにしています。来所しやすい環境作りにも努めています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 会いに出かけたり、来所していただいております。 地域の方々やふれあう場所に出向いたり、知り合いの方々やと会える機会を設けています。 | 職員は利用者の思いの実現に向け支援をしており、電話をかけたいたいの申し出があると事務所の電話で対応している。馴染みの農協の店に買い物に行ったり、独居から利用された方の希望で自宅を見に出かけ家の中を見たりと、職員が付き添い出来る限り馴染みの場所に出掛けている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 居室に入る時間以外は、共同スペースで職員も一緒に過ごしています。 利用者さん同士、職員も含まり、共同作業をしていただいたりしています。 | | |

グループホームまんでん

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 外でお会いすると、お互い声をかけたり、ホームにも顔を出したりしてくれています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 普段の会話の中から思いや意向を聴けるよう機会を作っています。 記録に本人の言ったことなどを書くようにしています。センター方式などを利用して、アセスメントしています。 | 自己決定を重んじ思いを聞くため、その場その場で職員は利用者を選択できるような聞き方で尋ねている。何か様子がいつもと違うと感じた時には一人になった時を見計らい居室を訪ねさりげなく声掛けして聞いているが、職員の判断で何事も決めつけないように配慮している。利用者のつぶやく言葉を記録ノートに書き込み職員間で共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族に出来る限り教えていただいたり、本人とのお話の中から聞き出しています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 出来ること、出来ないこと、嫌なこと、嬉しいことなど、普段の生活や会話の中から見つけ出し記録したり、シートを使用したりして把握に努めています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人となるべく一緒に考え、作成しています。 カンファレンスなどで、ケアの在り方など意見交換しています。 ご家族にも連絡しています。 | 利用者一人ひとりのケアについては月1回開かれるカンファレンスで今提供しているケアの内容について話し合い、サービス計画に照らし合わせ実情に合わせ見直しをしている。3ヶ月に1回の見直しを基本としているが、状態に変化が見られた場合には随時、計画の変更を行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個人記録に、ご本人の言葉、エピソードなど記入しています。 ケアプラン実施表を作成して毎日記入し、実践しています。 今後、記録の記入については、検討必要と考えています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 病院受診など外出には、柔軟に対応しています。 表情、気分など見極め、気分転換になることは何か、原因は何かなど一緒に考えています。 | | |

グループホームまんでん

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進委員に、地域の消防、警察、民生児童委員などお願いし、ホームの理解をいただき、協力もしていただいております。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 受診は、ご家族の要望に応じ、職員同行または代行しています。情報提供もしています。協力病院では、1ヶ月に1回の往診を行っています。 | 各協力医療機関との連携により、日頃の健康管理と緊急の場合の適切な対応が行われている。利用者の症状により専門医の往診治療も受けている。また、利用者の状態を把握している協力医院のホーム担当看護師により普段からの症状等の把握ができていたため安心である。ホームには准看護師の職員がおり、週1回、同じ法人の看護師も来訪しているので手厚い医療体制が築かれている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護職員を配置しています。24時間連携が取れるようになっています。看護職と介護職、良い関係が出来ていると思います。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には情報提供し、退院までの間、ご家族や病院と連絡を密に取っています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | 入所時に、ご本人とご家族に説明し、方針を話し合い、重度化に伴う同意書をいただいております。 | 開設以来ホームとしての看取りを数例経験している。管理者は看取りに直面した場合、その都度状態に合わせた話し合いと適切な対応を常に心掛け、医師による説明もお願いし、家族や職員の心身への気配りも忘れないようにしている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 救命救急は講習会を受けています。応急手当の訓練をしています。マニュアルなど表示しています。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 利用者さんと共に、避難訓練を行っています。連絡網の確認も行っています。運営推進会議などのもも要望しています。 | 9月、11月に大きな訓練をしている。消防署員による指導を受け、火事と地震、緊急時の心肺蘇生等の指導を受けている。避難の際に実際にかかる時間の把握のため、利用者のお昼寝の時間にあわせ、職員の担当も決めて避難訓練を試み、全員が避難するためには20分かかると、利用者の協力も得られることがわかり貴重な経験をしたという。備蓄は事務所の隣の部屋にあり、外部からも取り出しやすい場所に置かれている。 | |

グループホームまんでん

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○同業者との交流を通じた向上 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ご本人の気持ちを大切に考え、自分にされたらどうか、言われたらどうかを常に心において、声掛けをしたり、寄り添い支援するようにしています。 | 共用部分の居間兼食堂の一角に、衝立と長椅子を用意し、一人でくつろげる空間スペースを作ったり、持ち込んだ物が気になる利用者の居室の棚にカーテンをつけたりと、ホームでの暮らしを楽しんでいただくように職員が工夫している。言葉遣いに関しても、尊厳を守り、敬意をもって利用者に接している姿が見られた。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 利用者さんに合わせた声かけをして、表情や気分で読み取ったり、日々の会話の中で働きかけています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ひとり一人のペースを大切にし、それに合わせて生活していただくように、希望を尋ねたり、相談しながら支援しています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 出来る人には、自分で選び、着替えていただき、身だしなみも見守りで整えていただいております。 出来ない人は、一緒に着替え、身だしなみも整えております。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 一緒に食事しています。 出来る方は、一緒に準備したり、後片付けをしています。 | 栄養士の立てた献立を、看護職員がアレンジして一週間分の献立を作り、食材の調達をしている。ほとんどの利用者が自力で食事を取り、食事形態は水分のみトロミの方が3名ほどで、訪問時の食事時間も、料理や食材の話、好きな食べ物の話や今度はあれが食べたいなどの話が飛び交い、一人ひとりのご飯の量も多かった。食事もおいしく、楽しい会話をしながらほぼ全員が完食していた。退去された利用者家族も含め家族からの差し入れや隣の畑の方からの差し入れもあり、食卓を彩っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ひとり一人の体調と摂取量を把握し、看護師とも相談したりしています。 好きなものや食べやすいものを、出すようにしています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアをしています。 出来ない方は、口腔ケア用のウェットティッシュでケアしています。 毎日、義歯の洗浄も行っています。 | | |

グループホームまんでん

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ひとり一人、排泄記録を取り、パターンや習慣を把握して支援しています。 | 排泄や食事、服薬については生活記録表に記入し整理しているため、個人の支援内容がわかりやすくなっている。紙パンツ、おむつ、大きめのパット使用と、一人ひとりの利用者に合わせ対応している。職員は利用者の排泄パターンを把握し、声掛けで促している。また、利用者の腸の健康を考え乳酸菌飲料を10時のおやつに取り、排便・排尿がスムーズにできるようにしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | ひとり一人、排泄記録を取り、予防に心がけています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 出来る方は、自己決定して入浴していただいています。 入浴表を作成し、週に1～3回は入浴できるよう支援しています。 | 浴室にはリフトが後付けで備えられ、浴槽の縁にも滑り止めも貼られ、利用者への安全の配慮と、安心して楽しんで入浴することができるように気配りしている。夏場の暑い時期や排泄時に汚れたときなど、シャワーでの対応をしている。入浴後は保湿剤を塗り、皮膚のケアにも気遣いがされている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 休息したい時に、居室や共同ペースにあるこたつなど、自由に休んでいただいています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | カンファレンスなどで様子を確認し、看護師と連携しています。 連絡帳など活用しています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 楽しみ事などを見つけ、一緒に楽しみ、気分転換をしています。 出来ることも一緒に見つけ、声掛けしてお願いしています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 出来る限り、戸外に出掛けるよう支援しています。 (ドライブ、買い物、花見、イベントなど) | ホームの年間行事計画が立てられているが、計画に沿って行うだけではなく、利用者の要望や希望が出た時点で、意向に沿うよう支援している。町内にある同じ法人のケアホームには車椅子体重計があり、ドライブを兼ねて出掛けることもある。春の花見、花桃や藤の見学、回転寿司、秋のブドウ狩りなどに出かけ、夏の暑い時期にはホーム周辺の夕涼みに出かけたりもしている。 | |

グループホームまんでん

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 出来る方には、使えるよう支援しています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話など、希望があれば自由にお話していただいています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の花や、季節を感じられるものを飾ったり、置いたりしています。 温度、湿度計で管理しています。 利用者さんの声に耳を傾けています。 | 建物は大きめの片流れの屋根で、玄関前のスロープが使い勝手の良さを感じさせる。室内の3ヶ所の出入り口も生活のペースに合わせた造りとなっている。居間兼食堂の共用スペースの天井部分には木造の太い梁が見え、木の材質が落ち着いた雰囲気の居住空間を作り上げ、畳の小上がりと共に家庭的な温かみを感じさせている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下に長椅子を置き、場所づくりをしています。 共同スペースに畳スペースがあり、こたつなど自由に過ごせるようにしています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた馴染みの物品を持って来て、使用していただいています。 | 居室にはエアコンと大きな3段の棚があり、工夫次第で様々な活用ができる造りになっている。腰高の大きな窓からは明るい日差しが差し込み、なじみの整理ダンス、家族の写真や人形なども置かれ、自分らしく過ごせる居室になっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すり、スロープ、滑り止めなどを取り付けています。 | | |